

オオヌノフグリ(大犬の陰囊)



(井村)左写真がイヌノフグリという話も出ていましたが、花の色が青、大きさからオオイヌフグリです。右はタチイヌフグリ。
今やイヌノフグリは長野県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類(VN) サクラソウと同じランク。ちなみに、イヌフグリとオオイヌフグリの違い、色の差が分かるネットの写真を借用。
右のピンクの粒がイヌフグリ。



ジンヨウイチヤクソウの名前

(井村) ジンヨウイチヤクソウの漢字を先月「腎様…」ではないかと言っていました。「腎葉一葉草」、葉が腎臓の形をしていることから付いたそうです。訂正します。



スマレ! スマレ!



ニオイタチツボスマレ(匂立壺堇)k ニョイスミレ(如意堇)k



アケボノスマレ(曙堇) タチツボスマレ(立坪堇)



サクラスマレ(桜堇) マルバスマレ(丸葉堇)



アカネスミレ(茜堇) ホコバスマレ(鉾葉堇)?
写真k(小林美里) その他(井村)

アブラチャン(油漑青)その後

(井村)葉が落ちない木、落ちた木、雌雄に関係あるのかな? 結局、印が見えなくなり、分からずじまい。

(井村)花が終りに近づいたとき、雄花に触るとパラパラと落ちます。雌花は触っても落ちません。これから子孫を残す必要があるのですから。

遭遇1! ニホンリス

1班は北コースのフサザクラより池側のミヤコザサの斜面で見かけました。

2班も同じ場所のよう。

野鳥は?

(立石)鳥の声で印象に残っているのは、とびかっているサンショウクイの鳴き声、姿では最後に見たメスのサンショウクイツツドリ、今年が多いような。ミソサザヒガラ、ゴジュウカラ、他のカラ類も聞いたかな? コゲラカアカゲラのドラミング



井村

蜘蛛?



(井村)ワカバグモ(若葉蜘蛛)

真っ白な蛾は?



(井村)ウスアオエダシヤク食草ミズナラ、グリなど。

これは?



→
花芽がたちました



立石さんお勤め



花ではいいなと思ったのはタチイヌフグリの控えめだけど存在感のある瑠璃色の花 アカネスミレのムクムクケバケバ。ゼンマイの初々しい姿。
←ゼンマイ

山菜の情報(北澤)

クサソテツ(こごみ) 茎の下の白い線が決め手。



花が見れた



カスミザクラ(写真:小林) ニガイチゴ (写真:小林)
その他、モミジイチゴ、ムラサキケマン



もうすぐ花が見れそう
コバノガマズミ(つぼみ)



5月の月例観察会の
その後
コバノガマズミ 5.26
キリ 5.26
フデリンドウ 5.26
ヤマツツジ 5.26
ヤブデマリ 6.6
サワフタギ 6.6
キランソウ 6.6
フタリシズカ 6.6
ウツギ 6.13

これは何? 継続観察



ヒメザゼンソウの可能性大
葉が枯れる頃に根元に2cmの
花が咲くはず。



サルマメの雌花写真 Get!
(井村) もっと良い写真を募集中

ハイイヌガヤ!



雄花



雌花

去年の実今年熟し、ガイド
ブック P136 掲載の果実となる。



去年受精した実

オオムラサキ プロローグ (井村)



昨年7月、左前翅が欠損して
飛べないオオムラサキ(写
真)を南コースで発見したため、
食樹のエゾエノキを捜していま
したが、今回、荒木さんが難なく
見つけました。今年7月、是非オ
オムラサキが飛び交うのに出会
いたいものです。

オオムラサキ物語 (馬場)

真夏の吉田山、山中のエゾエノキの小枝に産卵され孵化した幼虫
は、秋に落葉とともに幹を降り根際の落葉裏にて越冬、翌春芽吹きと
ともに幹を登り若葉を食べて成長、初夏に蛹化、羽化して成虫になりま
す。

オオムラサキの生息を確認するには冬期の越冬幼虫を見つける事
が一番手軽で確実な方法ですが、林中の食樹エノキ(エゾエノキ)を見
つけ出すコツは、同じニレ科のケヤキと樹形が似ている、木肌はケヤキ
よりはザラザラ、幹の色はケヤキよりは暗い灰色など、ケヤキと比較し
ていくと見つけやすく、めぼしを付けた樹の根際の落葉の形状で最終
同定するのが良いと思います。

越冬幼虫はエノキ高木(小・中木にはほとんどいない。)の根際(20 cm
位マデかつ北側の範囲に多い。)の落葉裏にしがみ付いています。
同じ葉裏からよく似た大小2種類の幼虫が見つかることも多いが、大き
い方はゴマダラチョウ(4令幼虫)、小さい方がオオムラサキ(3令幼虫)
で、背中突起数が多い事で判別は簡単です。

では、今年の冬はエノキ・オオムラサキの越冬幼虫をみんなで捜索して
みましょう。

エゾエノキ (井村)

ガイドブック補足資料「樹木 P2」参照
葉脈はつけ根から3本に分かれる。



そしてその後 (井村)

頂上広場手前の左側にあるエゾエノキでオオムラサキと思われる
幼虫を見つけた。